

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成25年8月)

平成25年8月8日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4~H22.8.4 停止期間 H19.5.4~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定期検査による停止												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第13回定期検査中 定検停止期間:H24.1.25~	第12回 H18.11.24~H23.2.18 停止期間 H18.11.24~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)	第13回定期検査による停止												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H24.3.26~	第9回 H22.10.31~H23.3.9 停止期間 H22.10.31~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	第10回定期検査による停止												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18~H22.7.23 停止期間 H22.4.18~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定期検査による停止												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (7月末現在)

7月	0.0%
25年度累計	0.0%
運転開始後累計	59.1%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (7月末現在)

7月	0
25年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

④ ドラム缶発生量(本) (H25年度第1四半期)

当期発生本数	1,115
貯蔵庫累積貯蔵本数	32,759
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H25年度第1四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,734
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 従業員登録データ(人) (8月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	850	2,119	58%
	刈羽村	84	192	5%
	その他	117	847	19%
	小計	1,051	3,158	83%
県外		105	766	17%
合計		1,156	3,924 (3,361※)	-
		5,080		100%
協力企業社数(社)		639		

※8月1日の協力企業構内入構者数

⑦ 来客情報(人) (7月末現在)

	7月	年度累計
地元	1,002	3,061
県内	970	3,350
県外	814	3,467
国外	20	82
合計	2,806	9,960

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
8月22日	定例の記者説明会
9月12日	次回定期所長会見

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
①	平成25年 6月20日	6号機	タービン建屋（管理区域）における 水溜まり（雨水）の発見について （区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 定期検査中の6号機において、平成25年6月19日午前10時頃、協力企業作業員からタービン建屋の地下2階の配管トレンチ室（管理区域）において水溜まりを発見したとの連絡がありました。それを受け、当社社員が現場を確認したところ、午前11時頃、同建屋の地下2階の配管トレンチ室上部の中地下2階の配管トレンチ室（管理区域）において約800リットルの水溜まりを発見しました。 調査の結果、屋外排水設備工事のため仮設の排水ポンプを設置しておりましたが、夜間停止していた間に、雨水がタービン建屋の周辺に溜まり地下水位が上昇したことにより、タービン建屋とコントロール建屋を繋ぐエキスパンションジョイント部に通常より高い水圧がかかり雨水が流入したものと推定しました。 なお、現在、雨水の流入はありません。</p> <p>（安全性、外部への影響） 流入した水は雨水であり、測定の結果、放射性物質を含んでいないことを確認しております。</p> <p>（対応状況） タービン建屋に流入した雨水は、排水口から排水し所定のタンクに移送するとともに、床面の拭き取りを実施しました。また、タービン建屋周辺に溜まった水については排水ポンプにより排水しました。 対策として仮設排水ポンプを停止しない運用に変更するとともに、予備の排水ポンプを準備し雨水の排水に万全を期すこととしました。 その後、水平展開として当社社員が周辺エリアの現場確認を行ったところ6月21日、7号機タービン建屋地下2階トレンチエリア（管理区域）床面に約350リットルの水溜まりを発見しました。測定により放射性物質が含まれていないことを確認するとともに、溜まった水については、排水口から所定のタンクに排水し、床面の拭き取り清掃を実施しました。この水溜まりについても先に確認した事象と同様にエキスパンションジョイント部からの雨水の流入によるものと推定しております。 なお、その他の号機については、水溜まりは確認されませんでした。（平成25年6月27日までにお知らせ済み）</p> <p><u>その後、当該のエキスパンションジョイントの健全性確認を行っていましたが、一部のナットの締め付けトルクが基準値を下回るものが確認されたため、締め付けを実施し緩みがないことを確認しました。また、エキスパンションジョイントの壁の立ち上がり部において、一部、取付状態の不良箇所を確認したため補修を行いました。</u> <u>引き続き、エキスパンションジョイント部の健全性確認（ナットの締め付け確認、止水板の外観点検、ゴムの硬さ測定等）を行ってまいります。</u> <u>なお、他号機についても、同様な事象が発生している可能性がないか、順次、健全性確認を行い必要に応じ対策を行ってまいります。</u> <u>今後、従来の外観点検（2年毎）に加え、毎年、抜き取りにより定期的な締め付けトルク値の確認と目視点検による健全性確認を行ってまいります。</u></p>

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
②	平成25年 7月24日	6号機	タービン建屋（非管理区域）における 水漏れについて（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 定期検査中の6号機において、平成25年7月23日午後4時頃、パトロール中の当社社員が、タービン建屋1階熱交換器エリア給気処理装置前室（非管理区域）の扉前の床面に約2リットルの水溜まりを発見しました。 給気処理装置前室の室内を確認したところ、空調設備の凝縮水が約1,600リットル溜まっており、その水が同室の扉の隙間から室外へ流れ出ていることを確認しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 溜まった凝縮水には放射性物質は含まれておらず、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 溜まった凝縮水については、排水配管の清掃を行い、非放射性の水のタンクへ流して処理するとともに、正常に排水しています。（平成25年7月24日までにお知らせ済み） 過去の類似事象を踏まえ、凝縮水の流入が確認されている排水口・排水配管を点検対象とし、凝縮水の発生量が多くなる梅雨時期の前に通水確認を行うとともに、ファイバースコープによる排水配管内部の点検を行っていましたが、今回の事象は、点検対象とする配管の選定が一部で十分ではなかった為に、配管内の詰まりが発見できず、排水不良に至ったことが分かりました。 改めて点検対象の排水配管を精査すると共に、今後は、凝縮水が流入する可能性のある全ての排水口・排水配管について、凝縮水の発生量が多くなる梅雨時期の前に、排水配管の通水確認やファイバースコープによる内部確認を実施すると共に、パトロール等を強化し、排水状況の管理を徹底してまいります。</p>
③	平成25年 7月30日	6号機	タービン建屋1階空気抽出器室にお ける蛍光灯からの発火について （続報）（区分Ⅰ）	<p>（事象の発生状況） 平成25年7月29日午後6時49分頃、定期検査中の6号機タービン建屋1階空気抽出器室において、パトロール中の当社社員が蛍光灯からの発火を発見しました。このため、速やかに消防署へ連絡をするとともに、現場では、初期消火の為に消火器を準備しましたが、その間に火が消えていることを確認しました。 消防署による現場確認の結果、午後7時54分に鎮火確認、午後9時10分に火災と判定されました。焼損については、蛍光灯の器具のみであり、周囲への延焼はありません。 当該蛍光灯の分解点検を実施したところ、蛍光灯の安定器が火元であると推定しております。 （平成25年7月30日までにお知らせ済み）</p> <p>（安全性、外部への影響） けが人はおらず、外部への放射能の影響はありませんでした。</p> <p>（対応状況） 調査の結果、安定器の構成部品の1つであるコイル巻線に焦げ跡および断線が確認されました。原因は、蛍光灯の使用に伴い、コイルの絶縁物の機能が低下し、コイル巻線間のショートによる発熱により絶縁材が発火したものと推定しました。 当該の照明については、今後、新規のものを設置する予定です。 再発防止対策として、照明器具については、これまで点灯しない状態になったら器具ごと交換をしておりますが、今後は計画的な交換を実施してまいります。</p>

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
④	平成25年 7月31日	5号機	当社原子力発電所における原子力規制庁による平成25年度第1四半期保安検査および保安調査の結果について（5号機の設計管理における不備について）（区分Ⅲ）	<p>（事象の概要）</p> <p>平成22年度に発電所で設計を開始した「K-5 RPV（原子炉圧力容器）ヘッドスプレイメント配管設置について」の設計管理において、設計開始当時、マニュアルに定められている設計管理シートを作成しておりませんでした。</p> <p>（対応状況）</p> <p>対策として、設計管理シートの確実な作成および紛失防止を目的に、台帳との照合を管理職が3ヶ月毎に実施して設計活動の進捗を的確に管理する対策を平成25年4月より開始しました。また、仕様書の作成段階において設計管理区分を記載することにより設計検討時に気づきを与え、台帳自体の作成忘れを防止する対策を平成25年7月より開始しました。</p> <p>他に同様のケースがないか、過去3年分の設計管理シートの作成状況を確認したところ、全215件中3件作成していなかったことが確認され、これらの3件については、本不備と同様、各種会議議事録や技術検討書等により、すべて確認することが可能であり、設計活動自体は適切に実施されていることを確認しました。</p> <p>現在実施している対策については、継続的に実施されていること、対策が有効に機能していることを、今後、部長が計画的に評価し、対策の有効性をさらに高めていくとともに、管理者および担当者双方のマニュアルの理解を深める取り組みを行ってまいります。</p>